



平成 29 年 2 月 10 日

各 位

大阪市北区小松原町 2 番 4 号 大阪富国生命ビル
 会 社 名 日本 駐 車 場 開 発 株 式 会 社
 代 表 者 の 代 表 取 締 役 社 長 巽 一 久
 役 職 氏 名
 (コード番号: 2353 東証市場第一部)
 問 合 せ 先 取 締 役 財 務 経 理 本 部 長 小 野 大 三 郎
 電 話 番 号 0 3 - 3 2 1 8 - 1 9 0 4

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 2 月 10 日開催の取締役会において、平成 28 年 9 月 2 日に公表した業績予想の修正について決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

平成 29 年 7 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想数値の修正

(平成 28 年 8 月 1 日～平成 29 年 1 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	11,000	1,600	1,600	1,100	3 円 26 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	10,900	1,650	1,650	1,150	3 円 42 銭
増 減 額 (B - A)	△100	50	50	50	—
増 減 率 (%)	△0.9	3.1	3.1	4.5	—
(参考)前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 7 月期第 2 四半期)	8,634	888	1,141	654	1 円 94 銭

平成 29 年 7 月期通期連結業績予想数値の修正

(平成 28 年 8 月 1 日～平成 29 年 7 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	23,000	3,300	3,200	2,100	6 円 22 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	22,000	3,000	3,000	1,900	5 円 64 銭
増 減 額 (B - A)	△1,000	△300	△200	△200	—
増 減 率 (%)	△4.3	△9.1	△6.2	△9.5	—
(参考)前期実績 (平成 28 年 7 月期)	18,139	1,977	2,240	1,255	3 円 72 銭

2. 修正の理由

スキー場事業において、前シーズンに引き続き、昨年12月から本年1月前半にかけて、本州では小雪となりました。当社グループが運営するスキー場においては、小雪対策投資を重点的に実施した川場スキー場及びめいほうスキー場では、前シーズンよりも来場者数が増加した動きが見られたものの、当初想定していた積雪量が通常年に比較して少なく、一部のスキー場において、オープン日が予定より遅延し、また、全てのスキー場において、オープンしたものの雪不足により滑走エリアを十分に確保できなかったこと等の影響を受けました。その結果、とりわけ、HAKUBA VALLEY 白馬八方尾根スキー場・HAKUBA VALLEY 白馬岩岳スノーフィールド・HAKUBA VALLEY 柵池高原スキー場・HAKUBA VALLEY 鹿島槍スキー場において来場者数が想定を下回りました。

年間（平成28年8月から平成29年7月）を通してのスキー場事業全体の来場者数の見積もりについて、1月までの来場者実績に加えて、直近の来場者動向を踏まえた来場者数を改めて見積りを行い、来場者数の減少を見込んだことにより、期初予想の1,880千人から1,620千人へ変更いたしました。1月中旬以降に一定の積雪があったため、スキー場の閉鎖時期については、通常のシーズンと同時期としております。

以上により、平成29年7月期第2四半期及び通期の連結業績予想を修正いたします。

第2四半期においては、売上高は、駐車場事業の安定的な成長と、前期に開始したテーマパーク事業の貢献により、過去最高を見込んでおりますが、スキー場事業における上記小雪の影響により、当初計画を下回る見込みです。営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益においては、スキー場事業における小雪の影響があるものの、国内駐車場事業における積極的な月極契約の誘致や低採算物件の契約条件の見直し・解約等による収益性の改善と、テーマパーク事業におけるイベント開催等による集客力の強化や一部暖冬の影響を受けたことによる来場者数の増加、運営体制の改善による収益性の向上によって、当初計画を上回る見込みです。

通期においては、売上高は、第2四半期と同様の理由により、過去最高を見込んでおりますが、スキー場事業の来場者数の減少を見込んだことにより、当初計画を下回る見込みです。営業利益においては、テーマパーク事業における新たなアトラクションの開始や店舗リニューアル等による集客力強化によって更なる来場者数の増加と収益性の向上を見込むものの、スキー場事業における小雪の影響を補うことができず、当初計画を下回る見込みです。経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益においては、保有する有価証券の売却益等の発生を見込むものの、上記営業利益の減少により、当初計画を下回る見込みです。

なお、個別業績予想数値については修正いたしません。

3. その他

上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上